

令和七年度入学試験問題（学校推薦型選抜Ⅱ）

小 論 文

教育学部 学校教育教員養成課程

小学校教育コース 教科教育専攻 国語教育専修

注 意 事 項

- 一、受験番号を解答用紙の所定の欄に記入すること。
- 二、解答は、必ず解答用紙に記入すること。
- 三、解答用紙の他に、下書き用紙を配付するので、取り違えないよう注意すること。
- 四、解答時間は、一二〇分である。
- 五、縦書き、鉛筆（シャープペンシルを含む）書きにすること。
- 六、解答する際の字体は楷書とし、ていねいに書くこと。

非公開

問題

次のA、Bの文章は、戦前に沖縄女子師範学校・沖縄県立第一高等女学校で国語教師として教鞭をとり、戦後は琉球大学で言語学者として琉球語（方言）の研究、琉球語研究者の育成に尽力した仲宗根政善の文章である。よく読んであとの各問に答えなさい。

A

琉球語の美しさ

非公開

カナシへいとしい<sup>B</sup>

非公開

(仲宗根政善、『琉球語の美しさ』、ロマン書房、一九九五年、i~iii、抜粋・一部改変)

非公開

非公開

(仲宗根政善、『琉球語の美しさ』、ロマン書房、一九九五年、一〇四ページ、抜粋・一部改変)

問一 文章Bを読んで琉球語（方言）の「かなし」に相当する語は日本語の「かなし」とどのように異なるのか、その特徴を三〇〇字程度で説明しなさい。

問二 文章Aを読んで筆者の学校体験や琉球語（方言）に対する思いを踏まえて、国語教育において地域の言葉を位置づけて学ぶ意義について五〇〇字程度で述べなさい。

# 令和七年度入学試験問題（学校推薦型選抜Ⅱ）

## 小 論 文

教育学部 学校教育教員養成課程

小学校教育コース 教科教育専攻 国語教育専修

### 出題の意図

本専修では、国語科の世界の豊かさを生かして、多様な素材文を提供し、受験生が付け焼き刃でない「国語科へのこだわり」「国語への思い」を持つているかどうかを、小論文試験において測りたいと考えている。

本年度は、琉球語（方言）に関する2種類の文章を用意した。一つは方言撲滅運動と関連する仲宗根政善（琉球語学者）の学校体験についての内容である。もう一つは、琉球語のカナシ（いとしい）という語について、日本語の「かなしい」との比較も含めてその特徴について述べられたものである。問一では、琉球語のカナシと日本語の「かなしい」がどのように異なるのか、通時的な発達も含めて本文に従って理解できたかどうか読解力をはかり、さらに理解した内容を説明させることで論理的な記述力を測るものである。問二では、かつての琉球語の現状を理解した上で地域言語の価値をどうイメージできるか、国語教育的な発想力も含めて記述力を問いたい。

この入学試験問題を用いることにより、受験生が、教育学部学校教育教員養成課程のアドミッション・ポリシーにおける「一 教員として主体性を持ち、子ども及び社会と関わっていききたい人」「二 教育の理念と実践を広く深く学ぶ意欲のある人」に適う人材であるかどうかについても確認したい。